

事業計画名 名古屋大学デジタル価値創造人材育成プログラム

基本情報

改組内容	研究科等の設置・増員 + 学部等の設置・増員
所在地	愛知県名古屋市中種区
増員する情報系組織名(修士)	情報学研究科複雑系科学専攻、情報学研究科情報システム学専攻、情報学研究科知能システム学専攻、工学研究科機械システム工学専攻、工学研究科マイクロ・ナノ機械理工学専攻、工学研究科航空宇宙工学専攻、工学研究科電気工学専攻、工学研究科電子工学専攻、工学研究科情報・通信工学専攻
入学定員増数及び増員時期(修士)	62名(R7, R11)
増員する情報系組織名(学士)	情報学部自然情報学科、情報学部コンピューター科学科、工学部機械・航空宇宙工学科、工学部電気電子情報工学科
入学定員増数及び増員時期(学士)	36名(R7)

< 社会や地域のニーズ・課題 >

- ✓ 2030年には、**全国でデジタル人材が45万人不足**すると予想されているが、ユーザー企業側(デジタル技術活用側)が約3割と少なく、ITベンダー側へ偏在が指摘されている。
- ✓ **愛知県は**、国内有数の製造業の集積地であり、全国の約16%に相当する**7.2万人のデジタル人材(うち、ITベンダー側1.2万人、ユーザー企業側6万人)が不足**すると予想されている。
- ⇒ **情報学と工学の連携により、情報系(ITベンダー側)×工学系(ユーザー側)の強みを活かした教育プログラムを実施し、製造業DX(デジタル革新)を推進できる「デジタル価値創造人材」を育成する。**

< 研究科等の体制強化の概要 >

■ 情報学部・情報学研究科

博士前期課程 **R7に20名、R11に12名増員。**
 学士課程 **R7に16名増員。**
 ⇒ **人材育成の強化**

■ 工学部・工学研究科

博士前期課程 **R11に30名増員。**
 学士課程 **R7に20名増員。**

新たに「**デジタルイノベーション工学コース**」を設置。学士課程1年次終了時、博士前期課程入試時にそれぞれ学生選抜を行う。

⇒ **新たな社会的ニーズに応える**

< 教育内容・育成する人材像 >

情報×ものづくり

情報学と工学との融合による高度なサイバーフィジカルシステム(CPS)の教育によって、これまでの人材育成を継続しながら、新たな人材育成を推進する。情報学と工学の協力によって、情報系人材にはサイバー(仮想空間)からフィジカル(実空間)への価値想像力を、工学系人材にはデータサイエンスやシミュレーション等のサイバーにおける価値想像力を涵養する。

■ 情報学部・情報学研究科

これまでの価値創造人材育成に、工学における製造業のスキルをあわせて、サイバーフィジカルシステムの教育を涵養し、**デジタル総合知・価値創造人材育成**を進める。

■ 工学部・工学研究科

新たに「**デジタルイノベーション工学コース**」を設置。工学の知識に加え、情報技術を活用できる能力を涵養することにより、**製造業のデジタル革新を牽引できる人材を育成**する。

- ✓ 互いの学部研究科の科目を履修することで、サイバーフィジカルシステムについてのスキルと、それに基づく問題解決力を涵養。
- ✓ ディープテック・シリアルイノベーションセンターと連携し、学士課程から博士後期課程まで階層的に、**大規模かつ学際的にアントレプレナーシップ教育**を実施。
- ✓ グローバル性を涵養するため、情報学部情報学研究科ではシンガポール国立大学への留学プログラムを提供。

< 初中段階・他大学・高専・企業・自治体等との連携 >

- ✓ WWLプログラムや愛知県の活動との連携。
- ✓ 高等学校への出張講義や講義コンテンツの提供。
- ✓ 東海国立大学機構アカデミックセントラルを通じて、岐阜大学と連携開設科目を開講。
- ✓ 高専の卒業生を編入学生として受入れ。
- ✓ 企業や研究機関等から実務家教員を招聘。

< 女子学生、社会人学生等の確保 >

- ✓ 学士課程において、女子学生を対象とした推薦入試を実施。
- ✓ 数理データ科学教育研究センターにおいて、大学院生、社会人が一緒に学ぶDX人材育成プログラムの展開。
- ✓ リカレント教育への講義コンテンツの提供。